



# 沼中だより

学校教育目標：「個」・「心」・「力」

6月号

2024年6月27日発行  
返子市立沼間中学校  
校長 熊谷 啓明

## ○学校長より○

5月27日(月)の教育課程説明会にはたくさんの保護者の方々に参加をしていただき、ありがとうございました。その際、私の方からグランドデザインを使って「学校経営方針」についてお話ししました。今年度沼間中学校では重点目標を「魅力ある学校作りを目指して：生徒が安心して学べる安全な学校・生徒が自ら考え主体的に学ぶ学校」としました。これは全国で約30万人いると言われている不登校児童・生徒たちを少しでも減らしたい、そして、一人でも多くの生徒たちに「学校は楽しいところだな」「学校に行きたいな」と思ってもらいたいという願いを込めて設定しました。教育課程説明会では特に「生徒が自ら考え主体的に学ぶ学校」の実現に向けて、校内研究で取り組んでいる「授業改善」と「主体的に学習に取り組む態度の評価の改善」の二点についてお話をしました。保護者世代が受けてきた授業や評価とは違うものを目指しますので、なかなか理解しにくいと思いますが以下に、沼間中学校での取り組みについて簡単に述べたいと思います。

まず、「授業改善」に関しましては、各教科で「学びのプラン」で単元計画を示し、生徒たちが見通しを持って学習に取り組めるように配慮しています。また、単元の中での「自由進度学習」の実現を目指し、随時、昨年度の研究テーマである「協働的な学び」を取り入れています。具体的には、できるだけ講義形式の授業（「トークとチョークとジョーク」の授業とも言われています）を減らし、生徒たちが主体的に課題に取り組む授業へのシフトを進めています。さらに、国語科、数学科、社会科、英語科などの一部の授業ではクラスを取り払い学年一斉に行う「学年授業」を取り入れ、場所を固定せず講義を受けたい生徒、個人やグループで取り組みたい生徒に分かれて授業を受ける機会を設け、「個別最適な学び」の実現を目指しています。もちろん、課題がないわけではありません。おしゃべりしている生徒、タブレットで遊んでいる生徒など集中していない生徒は従来の授業と変わらず少なからずいます。これらの課題を解決できるよう、継続した授業改善を通して生徒たちの学習へ向かう態度を育てていきたいと考えています。

次に、「主体的に学習に取り組む態度の評価」に関しましては、「授業態度」や「宿題の提出」が評価されると誤解されがちですが、国立教育政策研究所発行の資料によると、

「主体的に学習に取り組む態度」の具体的な評価の方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられる。その際、各教科等の特質に応じて、児童生徒の発達段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要がある。(学習評価の在り方ハンドブック 2019)

とあります。また、昨年12月の「沼中だより 臨時号」に以下のようなことを書きましたので引用いたします。

平成12年以降は、評価の仕方が「相対評価から絶対評価(目標に準拠した評価)に変わった」ということで、生徒たちに多くの宿題(いわゆる提出物)を課してきました。しかし、最近になって、宿題に関しては、生徒がただ提出するだけの「手段の目的化」になっているのではないかという指摘があります。例えば、定期試験の間違い直しや答えを丸写しにしたワーク、板書や教科書をきれいに写したり漢字や単語をただ何回も書いたりしたノートなどのことです。提出だけが目的となった宿題では、本当に各教科の「身につけたい力」がついているのかはわかりませんし、やらされる気持ちだけが育ち、主体的に学ぼうとする力は養われません。そのような提出物では、「主体的に学習へ取り組む態度」を評価することはできません。(沼中だより 12月臨時号 2023)

沼間中学校では、提出物に関して、授業中の取り組みの成果物を提出したり、授業の前に予めアイデアを出したりするような指導と一体化した課題は出されるかもしれませんが、提出だけが目的となった指導が伴わない宿題は出されません。保護者の方々に「授業態度をしっかりとしなさい。」とか「ちゃんと提出物は出したの?」と子供たちに向かって言わせてしまうのはもうやめたいと思っています。

最後になりますが、沼間中学校の授業に関して強調したいことは、「テストでいい点を取る訓練をしているわけではない」ということです(生徒・保護者の方々の最大の関心は「進路」や「入試」であることは重々承知しております。入試対策に関しましても適宜授業等で取り組んで参ります)。問題を与え、しかも選択肢を与え、そこから選ぶような問題や、知っているか知らないかを問うクイズのような問題を解く練習ばかりしては、自ら課題を発見し解決しようとする力はつきません。各教科の評価に関しては、ペーパーテストだけでなく、レポートやプレゼンなど「思考力・判断力・表現力」を評価する方法も取り入れています。沼間中学校では、生徒たちの「主体的に学習に取り組む態度」の育成を進め、入試対策以前に必要な本当の学力をつけることを目指して、授業改善に取り組んでいきたいと考えております。

## ○生徒総会○

5月21日(火)に生徒総会が実施されました。生徒総会は、全校生徒が参加し、委員会やクラスがどのような目標をもって1年間過ごしていくかを共有し、認め合う大切な行事です。進行の中心となる生徒会本部役員や議長団の人たちは、4月の初めのころから長い時間をかけて議会の準備をしてくださいました。今年度の意見交換の柱は、「①充実した学校生活に向けた取り組み」と、「②学級目標および抱負」でした。各クラスでは、学級目標や抱負を決め、学年協がそれを1つの作文にまとめ上げました。レクや日々の生活における挨拶の心がけなど、各クラスがとても学校全体が明るく充実したものになるような意見を発表してくださいました。今回の生徒総会が、生徒一人一人が学校生活について自分事として考えるきっかけになればと思います。全校生徒がそれぞれの役割を全うし、無事にやり遂げることができた生徒総会です！本当にお疲れ様でした。生徒総会で発表した目標や抱負は、ここからがスタートです。一人一人が意識し、互いに高め合っていきましょう。

## ○体育祭○

5月23日(木)に体育祭が実施されました。今回は、初めての5月開催ということもあり、昨年度から現3年生を中心に「次年度の体育祭を考える会」を結成し、体育祭に向けて種目やルールについて検討し、各担当の先生方と打ち合わせを重ねることにより実現しました。また、平日にも関わらず、保護者・来賓・地域の皆様にも多数ご参加をいただきました。各ブロック、練習の成果もあり、最後まで接戦を繰り広げてくださいました。次年度の体育祭では、1・2年生を中心に、今年度の体育祭を実施した反省、良かったところを生かし、より発展させていきましょう。

(生徒会指導部担当:)

## ○学年より○

〈3年〉36期生は6月1日(土)～3日(月)に、奈良・京都へ修学旅行に行ってきました。事前学習時から、とても楽しみにしている様子で、朝の新横浜駅集合でのワクワクしている顔が印象的でした。3日間のうち短時間の豪雨こそありましたが、基本的には天気も良好で、全行程を楽しむことができました。

一日目は奈良の東大寺周辺、二日目は京都をそれぞれ班別行動で回り、三日目は金閣寺、嵐山(天龍寺)を学年で見学しました。班別行動は、事前に拝観場所や交通手段、食事場所などを調べてありました。奈良・京都は想定していた通りの混雑でしたが、どの班も概ね計画に沿って行動することができていました。班内で各々の長所を活かし、互いにサポートし合えて協力できていたのが何よりです。

旅館でも食事やお風呂、部屋での時間を楽しむことができました。このように成功できたのも、36期生のこれまでの積み重ねがあるからだと思います。この経験を今後の中学校生活に活かしていくてくれることを期待しています。(3学年代表:松井ゆかり)

〈2年〉6月7日(金)に1・2年生とキャリアフェスティバルが開催されました。37期生は1年次の3月にもキャリアフェスが開催され、今回が2回目でした。フェスティバルの前日準備も、前回の経験があるせいがとてもスムーズにみんな協力しながら行うことができました。当日も事業所の方の話を真剣に聞く姿が見られ、有意義な時間となったのではないのでしょうか。8月に職場体験が行われます。1年次のキャリアフェスで仕事について“知る”、2年次のキャリアフェスで“深める”、職場体験では“実際(現場)を体感し、さらに深める”を一つの流れとしています。みなさん、是非楽しみながら職業に触れてみてください。

6月19日(木)・20日(金)にいよいよ自然体験学習です。4月から竹林、SNS講演会、生徒総会、体育祭、環境新聞、キャリアフェス、あきんど、前期中間試験など行事盛りだくさんな中、各クラスでス

タンツ練習も行ってきた37期生。それでも、全員が主体性をもって取り組んでいました。当日は全員が最高の思い出を作ることができるといいですね。「BCW！みんなで協力！！みんなが主役！！Let's go 37期」(2 学年代表:山田 智昭)

〈1 年〉5月17日に行われた、企業によるキャリア教育の様子です。当日は相模原市の小池設備さんに来ていただき、水道や水回りを中心にどのような仕事をしているか、なぜこの仕事に就いたのか、という講話を聴きました。また、学校の受水槽を見学したり、トイレの天井を走る排水管を実際に見学しました。授業後、水道のパイプを見て積極的に質問する姿も見えました。1年生は6月にキャリアフェスティバルと環境教育を予定しています。



(1学年代表:)

総合的な学習の時間（地域防災）要項				
1 目的				
<p>○災害とは何かを理解するとともに、沈着・冷静・迅速に安全な行動がとれるようにする。</p> <p>○災害発生後の被災状況を把握させるとともに、中学生としてできる地域でできる地域での防災活動や防災訓練等に積極的に参加する意識を高め、自他の生命を尊重する態度を養う。</p> <p>○通学路を中心とした地域における地震発生時起こりやすい危険個所に気づき、どのような対策を立てればよかなど防災マップを活用して、具体的な行動化に結びつく力を身に付ける。</p>				
2 指導について				
事前指導	実地踏査	事後指導		
防災とは何かを地域講師からご講演いただく。自主防災組織を知り、各地区の避難場所・避難所、施設状況などを確認し、防災諸課題を探究する。	沼間中学区の各地区用防災マップを作成するための、防災諸課題等を現地踏査し、情報収集する。	防災マップづくりを通して、自分の住んでいる地域へ目を向け、災害時における望ましい行動の在り方について学習する。		
3 総合計画				
月	日	曜日	校時	学習活動
5	11	木	⑥	キャリアパスポートガイダンスおよびキャリアパスポートの記入
	18	木	⑥	情報モラル①
	19	金	⑥	情報モラル②
	25	木	⑥	情報モラル③
6	1	木	⑥	防災教育① 「災害について知る」講師：はっとり誠様
	2	金	⑥	防災教育② 「地域防災について知る」講師：はっとり誠様
	8	木	⑥	防災教育③ 「地域の課題探究」講師：はっとり誠様
	9	金	⑤⑥	防災教育④⑤ 実地踏査：地区ごとに地区の課題、避難場所、避難所等を確認する。
	15	木	⑥	防災教育⑥ 防災マップ・ウェブ新聞づくり(1)
	16	金	⑥	防災教育⑦ 防災マップ・ウェブ新聞づくり(2)
22	木	⑥	防災教育⑧ 防災マップ・ウェブ新聞づくり(3)	